

## 「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

## 会報

NO. 73

2020.3.1 発行

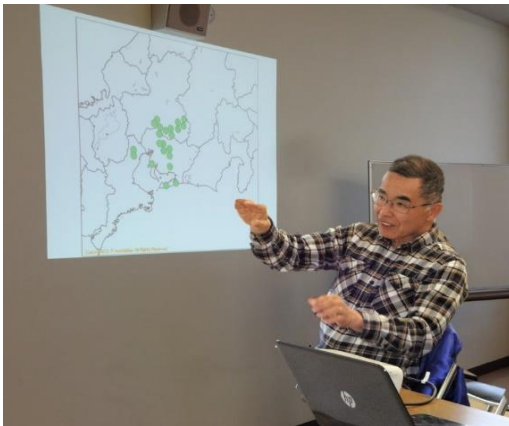
編集責任者：河地 清

[Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp](mailto:Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp)

## 第73回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『ふるさと春日井の自然』

「ふるさと春日井の自然環境 ～築水池を中心に～」



講師：内海 勇夫氏



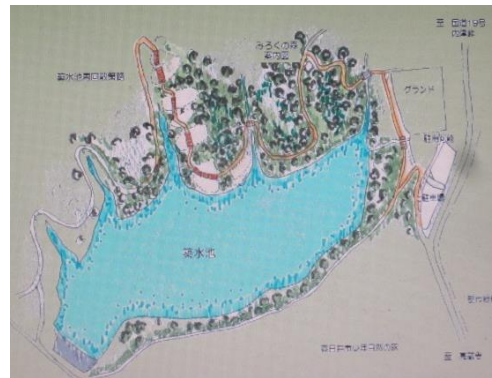
会場風景

2020年（令和2年）2月2（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ「ふるさと春日井の自然環境 ～築水池を中心に」で、内海勇夫氏（春日井市自然友の会会員、教員）にスライドを見せながらの発表をいただいた。参加者は20名。

### 《講演要旨》

もともと谷の湿地であったこの地が、築水池築堤ができて草刈り場、荒地、雑木林がの地が畑地に変わった。この地の「山地水明の自然」は「第二の自然（半自然）」と呼ばれる特殊な自然である。治山治水事業で作られた緑の復旧の結果生まれたものである。

### I. 自然の理解～自然の仕組み 築水池の周辺



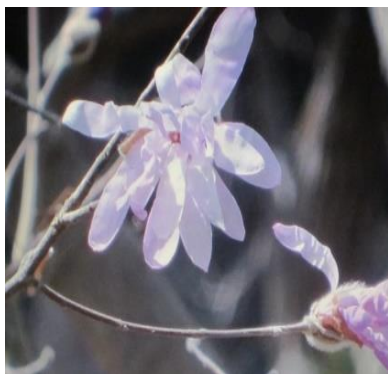


… 築水池の写真とこの地域特有の湿地の2枚の写真と池の地図を示し、「特殊な環境である湿地」をこうとらえる。

「湿地は、長い目で見ると、周辺からの植物の侵入を受け、徐々に乾燥して消失する運命にある」こと、「かつては、ニュータウンを含む丘陵にたくさんの湿地があり、えては、また新しい湿地ができる環境があった」と特徴づける。東海地方特有湿地の成因は、山地の上層に礫層が

あり、水を通すが、その下層に不浸水層である粘土層があり、その二層の境を水が斜面をに沿い流れ、湧水として流れ出る。その湧水が湧水湿地を形成する。この湿地帯に生息する代表的樹木がジデコブシである。絶滅危惧種で、東海地方に自生する貴重な植物である。春日井市自然友の会はこの自生地保全事業を行っている。マメナシの分布も重なる。ただし、友の会が植えて増やした区域もあり、厳密に自生のものではないものもある。湿地の草も豊かで、ハルリンドウ、トウカイコモウセンゴケ、ショウジョウバカマ、トキソウ、ササユリの花の写真を投影された。

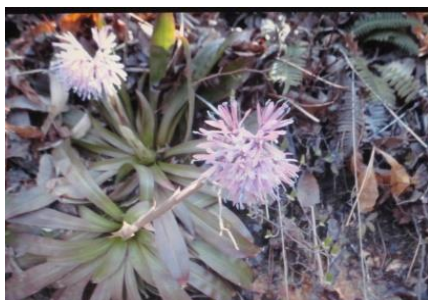
**II. 築水池に飛来する水鳥の変化 ～人間のかかわり方による水鳥の反応** … 昔は、猟区になっていたこともあり、水鳥の平井はほとんどなかった。「自然の家」ができて、銃猟禁止区域になり、後に鳥獣保護区となり、マガモ、コガモ、アオサギなどが入るようになった。その後、餌のドングリをまいてオシドリの飛来するようになった。池の外周に遊歩道ができると、オシドリの飛来がなくなった。湿地観察のための遊歩道がオシドリを追い出したとい



シデコブシ



ハルリンドウ



う。築水池の南に「ビオトープ」がつくられ、この沼地に、赤ガエル、カマキリの線虫、クロマドボタルもみられる。「」5～6年前に水抜きをした。「友の会」で清掃活動もし、ホタルが飛来する。昨年、波多野氏が廻間地区のヘイケボタルとゲンジボタルの発生状況の調査をしている。 **ショウジョウバカマ**

Ⅲ. 保護活動～雑木林の手入れをし、ギフチョウの里山づくり … ギフチョウの卵数の変化が調べられている。2005年に260個、2006年352個、2007年293個、2008年173個、2009年403個を数えたが、2010年には8個、2011年20個、2012年0となった。2019年は7個だった。子どもたちが学校でたギフチョウの観察記録が投影された。愛知県野生生物保護実情発表大会で子どもたちが発表している。



Ⅳ. 多様な生物が生存し、豊かな環境を支える

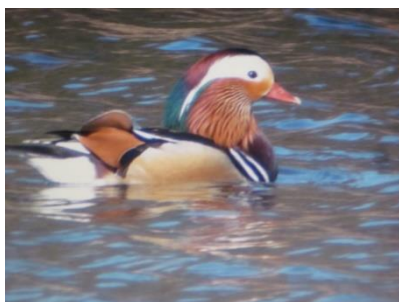
湿地を保護するために … ①湿地には入らない②植物などを採取しない③周囲の森林を維持する④他地域から生物を持ち込まない⑤十分な湧き水を保つ⑥栄養過多にならないようにする

Ⅴ. 「春日井の大木・名木」… 本会ですでに発表されているので略す。



「春日井市自然友の会刊」

Ⅵ. 最後に「帰化植物について」「野鳥」について紹介された。



オシドリ



ゲンジボタル



トキソウ



ササユリ

## まとめにかえて

築水池周辺には、多様な生物が生存し、豊かな環境を支える湿地がある。これらの湿地を保護するためには、・湿地には立ち入らない、湿地は踏み込みに弱く、それが湿地が消失する原因となる。・植物などを採取しない。・周囲の森林を維持する。・他地域から生物を持ち込まない。・十分な湧水を保つ。・栄養過多にならないようにする。と結ばれた。

(記録：塚田 忠雄)

## 「ふるさと春日井学」研究フォーラム

### Forum for Furusato Kasugai Studies

#### 2019年度(3月～2020年2月)実施した「フォーラム」一覧

日程	討論テーマ	発表者	会場
3/5 (日)	66回 「熊野神社の生い立ちを足元から観る」	富田 宏彦 氏 「ふるさと春日井学」会員	ささえ愛センター
4/7 (日)	67回 「和爾良神社再興800年祭と小野道風」	山本 哲夫 氏 「ふるさと春日井学」会員	ささえ愛センター
6/2 (日)	68回 「新木津用水改修と黒川治愿」	近藤 雅英 氏 「ふるさと春日井学」副会長	ささえ愛センター
8/11 (日)	69回 「ふるさと春日井の寺子屋教育」	河地 清 氏 「ふるさと春日井学」会長	ささえ愛センター
9/1 (日)	70回 「芝炭鉱株式会社と経営者芝義太郎」	塚田 忠雄 氏 「ふるさと春日井学」副会長	ささえ愛センター
11/3 (日)	71回 「上街道と味美の成立」	岩田 鎮人 氏 「生涯学習講師」	ささえ愛センター
12/1 (日)	72回 「元国威鉄機関士から見たJR中央線高蔵寺駅の今昔」	松本 孜 氏 「元国鉄機関士」	ささえ愛センター
2020年 2/2(日)	73回 「ふるさと春日井の自然－築水池周辺を中心に」	内海 勇夫 氏 「春日井自然友の会会員」	ささえ愛センター

#### 次回予定(令和2年度) 74回フォーラム

2020年3月1日(日) 於：ささえ愛センター PM1:30～4:00

「ふるさと春日井の教育・文化につくした人々」

—河田悦次郎・エリザベス・オリヴァー・ヴカナー—

塚田 忠雄 氏(「ふるさと春日井学」研究フォーラム副会長)